

一人でも多くの人を笑顔に

全国に誇れる、わがまち松山



公約実現に向けての報告

ご挨拶

市長就任以来、私の大好きな松山が笑顔あふれるまちになるよう、全身全霊で走り続けてきた4年間でした。

タウンミーティングは、平成25年5月から二巡目に入っており、皆さんからの貴重なご意見を施策につなげています。

また松山の魅力を全国に発信するアニメの製作や「まつやま農林水産物ブランド」のトップセールス、保育園などの園庭の芝生化、福祉総合窓口の開設、愛ランド里島構想・風早レトロタウン構想の策定など、これまで「一人でも多くの人を笑顔に 全国に誇れる、わがまち松山」をキャッチフレーズに7つの公約の実現に向け、全力で取り組んでまいりました。この4年間の公約実現に向けた取り組みをご報告します。

皆さんの笑顔の輪を市政推進の原動力に変え、第6次総合計画に掲げる将来都市像「一人でも多くの人を笑顔に 幸せ実感都市まつやま」の実現を目指し、誠心誠意努めてまいります。

野志 克仁

1. 「誇れる」行政サービスで笑顔に

◆市民が主役のまちづくり

タウンミーティングの開催

地域の魅力や課題について、市民の皆さんと直接対話しながら、お互いの役割分担や今後のまちづくりについて一緒に考えていくとともに、いただいた意見は可能な限り施策に反映しました。

◎全41地区での開催が目標でしたが、今年10月には、**二巡目を終了予定**
⇒**市政に対する信頼感やまちづくりへの参画意欲の醸成**につながりました。



◆行財政改革の推進

窓口の利便性向上

市役所別館1階に、国保・年金、介護保険、高齢福祉、子育て支援、障がい福祉など**105業務をワンストップで行う福祉総合窓口を開設**しました。

また、支所窓口での接遇レベルアップのため、**市役所接遇コンテストを実施**しました。

今後とも徹底した**行財政改革を推進す**るとともに、**市民目線の行政運営に努**めます。

健全な財政運営へのガイドライン

健全で適正な財政運営を図るため、独自の数値目標を設定しており、**全項目で目標値をクリア**しました。

また、平成30年度までを計画期間とした新たなガイドラインを策定し、これまでより厳しい目標設定を行いました。

コンビニ納付の開始

昨年4月に、介護保険料や保育料など、4種類の公共料金で**コンビニ納付を開始**しました。また、今年4月からは、市県民税や国民健康保険料など8種類にも拡大しました。 ◎**合計12種類で実施**

2. 「誇れる」ことばで笑顔に

◆「ことば」を活かしたまちづくり

街はことばのミュージアム

「絆」をテーマに募集した「だから、ことば大募集!!2010」の入賞作品を、路面電車、郊外電車、松山城リフト下、松山城ロープウェイゴンドラ、松山空港ロビー、空港リムジンバスなど、市内各所に掲示し、**“ことばを大切にすまち 松山”の魅力を全国に発信**しています。

◎**2013年度グッドデザイン賞を受賞**



俳句甲子園

第15回大会 (H24) ◎**東京地方大会を羽田空港で実施** ◎**サントリー地域文化賞を受賞**

第17回大会 (H26) ◎**29都道府県から過去最多の87校119チームがエントリー**

◎**五・七・五の“17”回を記念し、子規記念博物館でシンポジウムを開催予定**



正岡子規のふるさとシンフォニー

作家、作詞・作曲家の新井満さんが、子規の俳句にメロディーを付けた新曲が誕生しました。



◆子どものコミュニケーション能力向上

体験学習を通じた人間力の向上

体験学習を通して、子どもの社会性や豊かな人間性を育むとともに、地域の活性化を図りました。

◎**立岩ダッシュ村農業体験学習、中島ふるさと生活体験学習**

坂本ぼんぼこ村農業文化体験学習、愛ランドごごしま里島体験学習



3. 「誇れる」まちの安全・安心で笑顔に

◆災害に強いまちづくり

危機管理体制の充実

東日本大震災を受け、総合政策部に**危機管理担当部長を配置**するとともに、本庁舎5階に**災害対策本部室を常設化**しました。

また、津波避難対策として、自主防災組織の協力により**標高表示板を市内各所に設置**したほか、他市や関係企業等との大規模災害時の応援協定の締結や、災害時用の備蓄品等の確保等、危機管理体制の充実を図りました。



- ◎ **全小中学校、全公民館、各市有施設へのAED設置**
- ◎ **全小学校にリヤカー・発電機を配備**

地域防災力の向上



地域住民が主体となった組織活動が展開する中、自主防災組織のネットワーク化を進めました。

また、**保育所、幼稚園、小中学校教職員(合計240名)の防災士資格の取得を促進**したほか、全国的に減少傾向にある消防団員の充実強化を図るため、消防団員応援事業「**まつやま・だん団プロジェクト**」を開始するなど、地域の防災力強化に努めました。

- ◎ **自主防災組織の組織率100%を達成**
- ◎ **消防団員数2,412人 四国1位(H26.7.1現在)**
- ◎ **女性消防団員数191人 全国1位(H26.7.1現在)**
- ◎ **自治体別防災士資格取得者数2,034人 全国1位(H26.6末現在)**
- ◎ **「防災まちづくり大賞」消防庁長官賞受賞**



小中学校校舎の耐震化

災害時の避難場所ともなる小中学校の体育館については、全小中学校で耐震化を完了したほか、校舎についても**完了予定年度を平成33年度から平成29年度に前倒して**実施するなど、子どもたちの命を守る校舎の耐震化を進めています。

- ◎ **小中学校校舎の耐震化率:86.8%(H26.3末現在)**



◆都市基盤の整備

四国で唯一の50万都市、また県都にふさわしい都市基盤として、JR松山駅周辺整備や松山外環状線の整備に取り組むなど、**魅力あるまちづくり**を目指しています。



JR松山駅整備イメージ



外環状道路整備イメージ

◆水問題への対応

水資源に恵まれていない本市にとって、水問題への対応は市政の最重要課題の一つです。そこで、節水や雨水利用の推進を徹底するとともに、水源涵養林の整備や、周辺市町と連携しながら地下水の流動解析による保全策の検討など、**節水型都市づくりの推進**に取り組みました。

また、いつ起こるかかわからない渇水や事故に備え、安全で安定的な水源を確保するため、**黒瀬ダム未利用水からの分水を最優先**に取り組んでいます。

これまでに「水問題に関する協議会」(事務局:愛媛県)の幹事会を8回開催し、現状や課題を検討するとともに、西条市、新居浜市、松山市それぞれで「市民説明会」を開催し、意見交換を行いました。



- ◎ **市民1人1日当たりの上水道使用量290ℓ(H24) 中核市2番目の少なさ**

4. 「誇れる」子育てで笑顔に

◆小児医療体制の充実

- ◎24時間365日の小児救急医療体制をしっかりと維持しました。
- ◎6歳就学前の入院・通院に加え、助成の対象を小学校1～3年生の入院費用まで拡大しました。さらに、来年4月からは6年生まで拡大します。

◆待機児童対策



大街道の空き店舗を活用し、「まちなか子育て・市民交流センター(愛称:てくるん)」を整備し、保育・託児事業、子育て相談などを実施しました。

- ◎利用者累計20万人を達成(H26.5)

保育所の新設や増改築、既設保育所の定員増、家庭的保育事業や事業所内保育施設の拡充、仮設園舎の設置などにより、就任以降、**保育定員を597名拡大**しました。

- ◎待機児童ゼロを達成(H26.4.1現在)



◆運動場の芝生化

地域の協力体制のもと、保育園・幼稚園庭や小中学校庭の芝生化を推進しました。
⇒地域で子どもを育てる環境や、子どもたちのコミュニケーション能力・運動能力の向上を図りました。



◎芝生化実施数

保育園…8園 幼稚園…5園
小学校…2校 中学校…1校
地域交流センター…1か所
合計 17か所で実施

◆いじめ・不登校対策

「いじめほっとらいん」での相談対応のほか、「子どもから広がるいじめ0ミーティング」や「小中学生によるいじめ対策CM」の募集などを実施しました。

また、**適応指導教室**として松山わかあゆ教室や北条文化の森教室を設置したほか、ITを活用した学習支援、家庭訪問などの**対面指導**により、ひきこもり状態からの脱却に努めるなど、**いじめや不登校対策**に全力で取り組みました。

5. 「誇れる」福祉・医療で笑顔に

◆お年寄りの生きがいづくり

ふれあいいいきサロン

生きがいや仲間づくりの輪を広げるとともに、地域の介護予防の拠点として心身機能の維持向上を図り、お年寄りの生きがいづくりを進めました。

- ◎**サロンを254か所に拡充(年間延利用者10万人超)**
- ◎**男性の参加を促すため、15か所でサロン農園を新設 (H25)**



◆貧困の連鎖の防止

「土曜塾」の開講



低所得世帯の中学生を対象に、中学校教員OBや教育学部の大学生などが学習支援や生活指導等を行うことで、高校進学率を高めるとともに、将来的な職業の選択肢をひろげることで、**貧困の連鎖の防止**につながっています。

- ◎定員を30人から60人に拡大(H25～)
- ◎参加した中学3年生全員が高校に進学

◆新たな助成制度の創設

- ◎個別妊婦歯科健診
- ◎40、50、60、70歳の節目年齢での歯科検診
- ◎島しょ部からの通院等の航路運賃
- ◎特定健診(メタボ健診)の無料化

⇒**予防医療の充実**を図りました。



6. 「誇れる」まちの長所を活かし笑顔に

◆トップセールス

農林水産物ブランド



東京大田市場や首都圏の大手百貨店などで、「**まつやま農林水産物ブランド**」を直接PRすることで、認知度の向上や販路開拓を図りました。

◎**新規取り扱い店舗数:**

1か所(H22)⇒62か所(H25)

◎**首都圏大手百貨店での紅まどんなプロモーション販売実績**

: 1店舗32万2千円(H22)⇒10店舗430万円(H25)

企業誘致

◎**奨励金を活用した企業立地**
18件(雇用計画1,086人)

◎**コールセンター誘致**
2件(雇用計画735人)



◆“地産知招” ……地元産品で人を招く

えひめ・まつやま産業まつり



H23から、愛媛県と合同で開催

◎**出店者:334団体、来場者:約12万1千人(H25)**

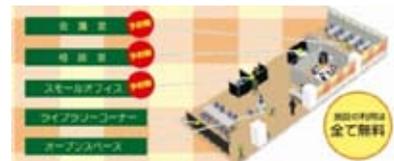
フリーペーパーによる情報発信

「おいしいまつやま」を創刊し、地域産品をPRすることで、販路開拓や流通促進、消費拡大を図りました。



◆雇用対策・中小企業支援

創業者に融資支援や経営支援等を実施するなど、新規産業の育成に取り組むとともに、合同面接会等の開催やテレワーク業務受注事業者への奨励金交付など、若者や弱者の雇用促進を図りました。



◎**「まつやま経営交流プラザ」をオープン**

松山市中小企業支援プログラム

今年4月からの消費税増税対策として、市内企業の大部分を占める中小企業の暮らしを支え、元気と活力を取り戻すため、5つのプログラムにより、中小企業支援を進めています。

1. 創業及び創造的事業促進プログラム	4事業	92百万円
2. 経営基盤(資金、人材、設備等)強化プログラム	5事業	2,059百万円
3. 受注・販路拡大支援プログラム	13事業	897百万円
4. 官需用受注機会促進プログラム	1事業	15百万円
5. 継続的支援確立プログラム	2事業	16百万円

◎**25事業 約31億円**

住みいるリフォーム補助制度

地域経済の活性化を図るとともに、市民の生活基盤である**住宅の安全性の向上**や**快適な居住環境の充実**を図るため、**住みいるリフォーム補助制度を創設**しました。

◆歩いて暮らせるまちづくり

歩行者、自転車のような「遅い交通」の利便性を向上させることで、**コンパクトシティ**を目指しています。

《花園町通り》

車線を減らすことで、歩行者空間の創出や自転車レーンを設置する社会実験を実施しました。

実験中に生まれた空間を活用して、ベンチやオープンテラスを設置したほか、フードストリートやイルミネーションを実施するなど、**賑わい・憩いの空間を創出**しました。

地元の同意をいただき、今年秋以降に電線類の地中化工事に着手します。



◆スポーツを活かしたまちづくり

プロ野球公式戦など全国規模の大会を誘致することで、スポーツを「みる」楽しさを味わっていただくとともに、市民の元気、まちの活力の創出を図りました。



坊っちゃんスタジアムでは、
◎地方球場では初となる2度目の
プロ野球オールスターゲームを開催(2012年)



《愛媛マラソン》
◎「ランナーのクチコミ大会レポ2013」 **総合年間ランキング 全国1位**

◆環境にやさしいまちづくり

環境モデル都市

温室効果ガスの大幅な削減など、低炭素型社会の実現に向け、先駆的な取組にチャレンジする都市として、国から

◎「環境モデル都市」に選定されました。(1700を超える市区町村中、わずか23都市)



環境モデル都市



松山サンシャインプロジェクト

市民と企業と協働し、太陽光エネルギーを中心とした再生可能エネルギーの活用による脱温暖化と産業創出に取り組みました。

◎補助により設置した太陽光発電システム数1,608件 中核市1位(H24)



ごみの減量、リサイクルの推進

◎市民1人1日当たりごみ排出量 7年連続最少(人口50万人以上の都市)

7. 「誇れる」地域の宝を磨き笑顔に

◆都市ブランド力の向上

松山の多彩な魅力を最大限に引き出し、全国の人々から選ばれる都市となることを目指し、**都市ブランド戦略課**を新設しました。

都市ブランド戦略プラン

魅力ある資源や特性を活かしながら、都市ブランドを確立するとともに、戦略的なシティプロモーションを展開する**「都市ブランド戦略プラン」**を策定しました。



だんだん松山プロジェクト

市民の皆さんと一緒に、松山の良さを見つめ直し、磨き、全国へ発信する取り組みを進めました。



ブランドメッセージとして「**いい、加減。まつやま**」を発信するとともに、市民投票により、**ロゴマーク**を選定しました。

道後温泉や松山城などを舞台とした**オリジナルアニメ**を制作し、ウェブ上で公開しました。



◎メディアプロモーション実績(H23~25年度)

メディア露出件数: 857件
広告換算金額: 約38億5千万円
広告効果: 事業費の約105倍

◎**平成26年度全国広報コンクール** 広報企画部門入選

◎**第17回アジア太平洋広告祭(アドフェスト2014)**

ファイナリスト受賞

◎**国際短編映画祭「ショートショートフィルムフェスティバル」&アジア2014** **第3回観光映像大賞特別賞受賞**

◆観光客の誘致

瀬戸内・松山構想

瀬戸内海の魅力を引き出し、物語を演出しながら、広島と松山の資源を組み合わせた新しい旅を創出し、エリア全体の新規観光客の獲得を図りました。

◎大手旅行会社等による集中送客キャンペーン…**JR(H24)**、**近畿日本ツーリスト・日本旅行・トップツアー(H25)**、**JTB・名鉄観光・農協観光(H26)**

◎国が海外向けに提案する「**新ゴールデンルート**」に京都・広島・松山ルートが選定

◎広島・松山間の航路利用者**34万1,414人(H25)** ※2年連続の増加

◎松山への推定観光客数**564万2,500人(H25)** ※H22以来3年ぶりの増加



「おもてなし日本一のまち」宣言



今年は、
瀬戸内海国立公園指定80周年
道後温泉本館建設120周年
四国八十八箇所霊場開創1200年
という節目の年であることから、
官民一体となって、**まちの「おもてなし力」の向上**に取り組んでいます。

道後温泉の活性化



「最古にして、最先端。温泉アートエンターテインメント」をテーマに、
国際芸術祭「道後オンセナート2014」を、昨年10月のプレイベントを皮切りに、今年12月まで開催しています。

◎道後温泉宿泊者数 **81万7千人(H25)**
※2年連続増加、過去5年で最多

台湾・台北市との交流

平成21年から台北市との友好交流の絆を深め、昨年10月に、

◎**“夢の懸け橋”**となる

「台北・松山(しょうざん)空港ー愛媛・松山空港」直行チャーター便が運航



◎放生園の「坊っちゃんカラクリ時計」をモデルにした

「松山ー道後温泉幸福(しあわせ)からくり時計」を台北市に設置

◎JR四国と台湾鐵路管理局において、「松山駅」同士の友好駅協定を締結

◆風早レトロタウン構想

「昭和の賑わいを求めて」をテーマに、「再生」「継承」「創造」の3つの視点から北条地域の活性化を目指す「**風早レトロタウン構想**」を策定しました。



イベント参加者でにぎわう北条駅前通り

住民が主体となって「風早活性化協議会」を立ち上げ、様々なイベントを開催しました。

◎**風早活性化協議会実施イベント来場者数(H25)**

ここ夏鹿島ke↑駅前ゆかたまつりZ **約6,800人(7月)**

風早レトロまつり **約5,500人(11月)**

◆愛ランド里島構想

「暮らしやすい島、市民の第二のふるさと」をコンセプトに、「島びとが生き活きと輝く笑顔あふれる里の島」を目指す「**愛ランド里島構想**」を策定しました。



「里島めぐり」パンフレット

島しょ部住民で構成する「里島ツーリズム連絡協議会」の運営を支援しました。

◎**体験メニュー数:70 参加者数:5,982人(H25)**

～就任から3年半の歩み～

平成22年

11月 初登庁・就任式

平成23年

1月 タウンミーティング開始(五明地区)
 2月 「だから、ことば大募集!2010」表彰式
 3月 東日本大震災被災地への応急給水及び緊急消防援助隊の派遣、松山市被災地支援本部の設置
 北条スポーツセンター体育館落成式
 市消防団女性分団を発足
 都市ブランド戦略課を新設
 4月 **TM** 鳥獣被害防止対策を拡充
 子規記念博物館開館30周年記念式典
 (株)パソナテック松山BPOセンターの立地協定書調印式
 5月 小中学生スクールミーティング開始(たちばな小)
 個別妊婦歯科健診助成開始
 6月 宮城県南三陸町及び福島県会津若松市を訪問
 園庭の芝生化開始(坂本幼稚園)
 7月 姉妹都市提携30周年記念 米国・サクラメント市を訪問
 第1回中学生英語暗唱コンテスト開催
 三津浜・地域交流センター リニューアルオープン
 8月 水道管路管理センター完成
 「水問題に関する協議会(幹事会)主催による市民向け説明会」を開催
 9月 子ども医療助成拡充(小学1～3年生入院費無料化開始)
 花園町通りのイルミネーション点灯式および「花園町フードストリート」開催
 「瀬戸内・松山」構想シンポジウム開催
 10月 市税催告センター開設
 えひめ・まつやま産業まつり開催
 11月 危機管理担当部長を新設・市庁舎に災害対策本部室を常設

平成24年

1月 松山城誕生記念日「おめでとう410歳！」開催
 台湾八大テレビ ドラマ「アリスへの奇蹟」制作発表
 3月 株式会社E-SOLAR松山工場の立地決定
 まちなか子育て・市民交流センター「てくるん」オープン
 愛ランド里島構想を策定
TM 島しょ部航路運賃の助成開始
 JRによる集中送客キャンペーンの実施(～6月)
 消防団を応援する「まつやま・だん団プロジェクト」開始
 4月 **TM** 風早ふるさとめぐり開催
TM 「こども自転車ゴールド免許証」授与式(番町小)
 ベルギー・ブリュッセル訪問、観光俳句ポストを設置
 歌手・五木ひろしさんを「松山うたごころ大使」に任命
 坂の上の雲ミュージアム開館5周年記念シンポジウム開催
TM 地域交流センターの芝生化
 6月 「俳句甲子園」東京地方大会開催(羽田空港)
 松山市子ども健全育成事業「土曜塾」開講
 別館1階に「福祉総合窓口」を開設
 7月 プロ野球オールスターゲーム2012 第2戦(坊っちゃんスタジアム)
TM 通学路の安全点検(小学校49校)実施
 小中学校の教員を対象に防災士養成講座を実施
 第15回「俳句甲子園」全国大会(サントリー地域文化大賞受賞)
 8月 柔道・中矢力選手へ松山市文化スポーツ栄誉賞を贈呈
 都市ブランド戦略「だんだん松山プロジェクト」開始
 自主防災組織結成100%達成
 10月 野球歴史資料館の・ホールミュージアムリニューアル
 花園町通りで社会実験実施(～11月)
 風早レトロまつり開催(JR北条駅前通り)
 11月 瀬戸内・松山ツーリズムシンポジウム開催
 2012還暦交流集会開催
 三越伊勢丹との連携による集中プロモーション及びトップセールス実施
 12月 第6次松山市総合計画基本構想議決
 デジタル・インフォメーション・テクノロジー(株)の誘致決定

平成25年

1月 津波避難対策として「標高マップシステム」の運用開始
 「この街で」ウェディング in 松山の実施
 2月 「伊佐庭如矢」シンポジウムの開催
 全41地区でのタウンミーティング実施・1巡目終了(河野地区)
 「環境モデル都市」に選定
TM まつやま・ほりえ海の駅「うみてらす」落成
 官民協働による「おもてなし日本一」のまち宣言の実施
 3月 第6次松山市総合計画基本計画策定
 都市ブランド戦略プラン策定・ブランドメッセージ「いい、加減。まつやま」
 風早レトロタウン構想策定
 4月 道後温泉活性化担当部長、国体推進課新設
 新西クリーンセンター供用開始
 介護保険料、保育料等のコンビニ納付を開始
 近畿日本ツーリスト、日本旅行による集中送客キャンペーン(～9月)
 5月 タウンミーティング2巡目開始(堀江地区)
 6月 節目歯周疾患検診開始
 中四国初となる国内線Lcc「ジェットスター・ジャパン」の松山空港就航
 7月 坂の上の雲ミュージアム来館者数100万人達成
 ICTを活用し健康・観光・防災事業に取り組む「スマイル松山プロジェクト」産官学・地域連携協定調印式
 9月 株式会社KDDIエボルバ・松山市立地協定書調印式
 まつやま経営交流プラザ開所式(松山銀天街GETI)
 10月 松山城二之丸史跡庭園が「恋人の聖地」に認定
 「ことばのちから事業」が2013年度グッドデザイン賞を受賞
 トップツアーによる送客キャンペーンの実施(～3月)
 松山発オリジナルアニメーションを公開
 愛媛松山空港-台北松山空港チャーター便運航記念式典
 11月 姉妹都市提携25周年を記念してドイツ・フライブルク市を訪問
 ヘルマン・ファン・ロンバイ欧州理事会議長が来松。特別名誉市民の称号を贈呈
 12月 道後オンセナートイベント・オープニングセレモニー
 7年連続、人口50万人以上の都市の中で「ごみ排出量最少」

平成26年

2月 **TM** 第52回愛媛マラソンの定員を8,500人に拡大して開催
 味酒小学校正門前の歩道橋完成
 『公共施設マネジメント基本方針』を策定
 八雲保育園保育棟完成
 第24回椿サミット松山大会の開催
 3月 松山外環状道路インター線(井門IC～古川IC)開通式典
 北条鹿島博物館展示館(愛称:かしまー)リニューアルオープン
 「瀬戸内しまのわ2014」の開幕(～10月)
 『健全な財政運営へのガイドライン』の改定
 防災士資格取得者2,000人達成
 子ども・子育て担当部長、保育・幼稚園課の新設
 待機児童ゼロ達成
TM 防犯灯のLED化の助成開始
 子規記念博物館無休館化の実施(～3月)
 4月 フライブルク市との姉妹都市提携25周年記念フォーラムの開催
 道後温泉本館改築120周年記念式典の開催
 道後オンセナート2014グランドオープン
 特定健康診査(メタボ健診)自己負担金無料化の開始
 瀬戸内しまのわ2014「しまフェスタin三津浜」・「二日丸ごと三津三味」の開催
 元子規記念博物館名誉館長・天野祐吉氏に市民栄誉賞を授与
 松山市医師会館を災害時の医療救護所に指定
 坂の上の雲ミュージアム来館者110万人達成セレモニー
 『道後温泉本館周辺地区』が都市景観大賞「都市空間部門」で優秀賞受賞
 5月 「まつやま笑顔の子育て応援連携協定」締結
 “てくるん”利用者20万人達成
 地元3金融機関と「地域経済の持続的な発展に向けた連携・協力協定」調印式
 「主婦が幸せに暮らせる街」ランキングで全国5位、四国1位
 6月 正岡子規の俳句にメロディをつけた新曲の発表

TM …タウンミーティングにおける意見から実現した事業